


| ルールってな〜に? | さいばんってどんなもの? | べんごしてなにをする人? | べんごしになるには? |
| にちべんれんホームページへもどる |

 子どもページがある関連サイト

→ 第二東京弁護士会ひまわりページ → 大阪弁護士会こども法律研究所

お問い合わせ先: Kouhou@nichibenren.or.jp



このページをごらんになるには、Flash Playerがひつようです。

Copyright ©2007 Japan Federation of Bar Associations, all rights reserved.



ルールってなに？



交通のルール



ルールってなに？
みなさんのまわりにはいろいろなルールがありますよね。

スポーツのルール、交通のルール、ゲームのルール、家庭でのきまり、学校の規則、クラスのきまり、などなど。法律もこうしたルールのひとつと考えるといます。でもなぜルールってあるんだろう？考えたことがありますか？

みなさん「ルール」とか「きまり」と聞くとどう思いますか？

めんどう、かたくな、きびしい、むずかしい、などと思う人があってもいいですね。でもルールやきまりがないとどうなるでしょうか？

ルールはどうして必要なの？

たとえば、交通のルールがなかったらどうなるでしょうか？

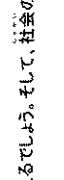


赤信号も青信号もなくしてしまつたら、私たちはいつ道路を横断していいかわかりません。



交通事故も増えるでしょう。

スポーツのルールがなかったらどうなるでしょうか？



たとえばサッカーで、「レッドカード」も「イエローカード」もなしでサッカーをしたら、けが人続出、とてもサッカーにはなりません。

人々が安全に平和に生きていくためには、ルールが必要となることは分かってもらえるでしょう。そして、社会のなかのいろいろなところでルールは必要となります。

何もかも全てがルールでまわっているような社会というのはどうでしょうか？



朝起きる時間、着るもの、食べものがすべて決められているとしたらどうでしょうか？そつとしますよね。

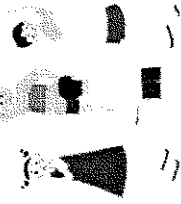
人間は、ロボットじゃなく、ひとりひとりの人間として意思をもっているんだと言いたくなるでしょう。

ルールを覚えることも大変だし、それを守らない人の取り締まりも大変でしょうね。

そうすると、ルールはできるだけ少ないことも大切だということになるでしょう。

教室のそうじ当番はどうやって決めよう？
まず、教室のそうじ当番は必要でしょうか？
そうじは面倒だし、教室を掃除して少しくらいゴミがあってもかまわないと思ってもいいですね。でも、ゴミだらけの教室で毎日勉強するのは嫌だと思いませんか。そうすると、だれかがそうじをしなればなりません。

では、だれがそうじをしようか。ジャンケンで決めたらどうでしょうか？

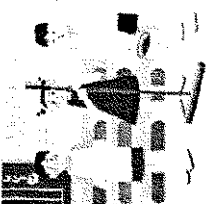


ジャンケンは運まかせのところがあり、みなさんもよくこの方法は利用するでしょう。

でも、そうするとみんなの教室をきれいにするのに、まったくそうじをしないでよい人がいるかもしれません。それでよいでしょうか？

みんなが同じように担当すべきだということになるでしょう。そこで、誰か一人に順番にとかいうかたちで、そうじというほん当番を決めようと思いませんか？

そうじ当番をさぼった人がいた場合はどうしたらよいでしょうか？



ほかの人の2回分をややというのではどうでしょう。これは考えてもよさそうですね。

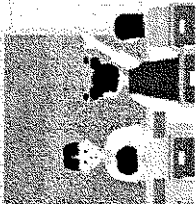
では、もっと重くして、1か月ずつとややというのではどうでしょう。ちよつと厳しすぎる感じがしませんか？

また、そういう形ではなく、グラントを10周走るといふのはどうでしょうか。これだと走るの好きな人は、むしろ進んでさぼってしまうかもしれません。

こうした問題には正しい答えはありません。あるいはみんなが納得するようなのであれば、それが正解ということかもしれません。

ルールはどうやって決めるの？
みんなが意見を出し合つて決めてみたらどうでしょうか？

そうじをさぼった人がいたら、どうしたらいいか…？



次の日、昼休みに教室のそうじをする！
職員室の怒ふきは？
朝早く来て花だんの水やり！

このように出てきた意見をみんなで話し合ひして、よりよいルールにしていけるとができるでしょう。みんなが意見をまとめていくことも大切ですね。

意見がまとまらない場合は、どうしますか？

意見がまとまらない場合は、多数決で決めるということになるでしょう。これが、「民主主義」という考え方です。

でも、国民全員が話しあうことはできるでしょうか？
すべての国民が全員で話しあうことはできませんので、国民であるみなさんの代表者(国会議員)を選挙で選んで、その人たちが国会で、みんなのルールを決めるための話し合ひをしているのです。

こうして決められたルールが「法律」です。

ルールはどうして守らないといけないの？
ルールはどうして、守らないといけないのでしょうか？

みんなが決められたルールであるのに1人だけまも守らない人がいたら困りますね。





弁護士って何をする人？

「弁護士って何をする人？
弁護士を知っていますか？」

みなさんは、弁護士に会ったり、身代りしたことがありますか？
最近、テレビに出てくるのを聞いたことあるかもしれません。どうしていろいろな
かなが臭かかせませんよ。

でも、社会のめもごとやトラブルを解決するために、私たち弁護士はいろいろな
ところで働いています。

人権や正義を守るのが弁護士の使命です。

「弁護士法」という法律には、弁護士が「基本的な人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする」と書いてあ
ります。

人権とは、どのような人でも、男の人でも、女の人でも、大人でも、子どもでも、ど
のような仕事をしていても、お金があっても、そうでなくても、一人の人間として
大切に扱わなければならない権利です。

みんなの人権を守るため、そして、みんなが安心して暮らせるような社会をつくる
ため、弁護士は日々活躍しているのです。

弁護士は、法律のお医者さん！？

みなさんは、なぜをひいたり、けがをしたらすると、お医者さんにみてもらいますよね。

それと同じように日々の生活の中で、困ったことがおこったり、めもごと巻き込まれること
があります。そういう場合は誰に相談したらよいのでしょうか？

弁護士は、社会のルールであり、みんなの権利を定めた法律の専門家です。お医者さ
んに見てもらうように、弁護士に相談するのがよいでしょう。

まず、弁護士は、めもごとやトラブルで困っている人から相談をうけた時、それを「法律相談」といって、ど
のように問題を解決できるか説明します。それを「法律相談」といっています。

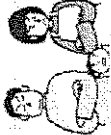
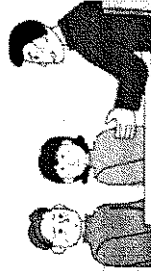
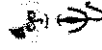
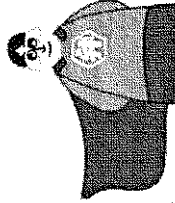
「法律相談」は、弁護士の事務所(法律事務所といいますが)でも行って
いますが、みなさんが住んでいる地域にある弁護士会の法律相談セン
ターや、市役所・区役所でも行っています。

しかし、「法律相談」だけではトラブルが解決できないこともあります。そ
のときは、弁護士と結んで、どのような方法で解決するのが一番よ
いかを考え、弁護士と協力して、トラブルの相手と話し合ったり、裁判を
おこなってもらったりして解決していくことになります。

めもごと、トラブルは、内容によって民事事件と刑事事件の2つに大きく分けることができます。

民事事件とは、私たちの普段の生活の中で起こるお金、物の売り買い、
交通事故、結婚・離婚、遺産相続などの争いご指します。

刑事事件は、犯罪が起ったときに、犯罪を犯したとされる人を処罰すべきかどうか、
処罰するかどうかのような疑問を解決するめもごとです。



民事事件では、弁護士は、あらそいごと巻き込まれた一方の人の立場にたって(代理人と言います)、その
手助けをします。

刑事事件では、弁護士は、弁護人として、悪いことをしたとして警察につかまっ
たり、裁判にかけている人(被疑者や被告人)の立場をまもり弁護をします。

弁護士は、このほかにも、家庭でのめもごと(家事事件)、子どもの非行問題(少
年事件)、国や県や市などの自治体との間のトラブル(行政事件)を解決するた
めの仕事も行っています。このように弁護士は、社会のめもごと、トラブルの解決の
ために活動しています。

どうして悪いことをした人の味方をするの？

悪いことをした人、悪いことをしたと怒られる人、弁護することも弁護士の大切な仕事です。

どうして悪いことをした人を味方するの？

悪いことをした人にも人権があるの？

まず、本当に悪いことをしたのかどうか、その人から話を聞く必要があります。た
えば、本当は人のものを盗んでいないのであれば、本当は盗んでいない
ことを証明するための証拠を集めて、その人が犯人でないということを明らかにし
てあげなければならないですよ。

また、人のものを盗んでしまったとしても、被害にあった人にきちんと盗んだもの
を返したり、本人が深く反省していたり、家族や職場の人が本人が二度と悪いことをしな
いよう協力してくれるのであれば、そのことを裁判官に伝えて正しい判決が出るようにする必要がある
があります。

悪いことをしたり、悪いことをしたと疑われている人にも、人として大切に扱われる権利(人権)があるんですよ。

公平で正しい裁判を受ける権利と、そのために、弁護士をたのむ権利があります。弁護士には、その人たちの
権利をまもるためにベストをつくすことが求められています。

人権や正義をまもるために
そのほかにも、人権や正義をまもるためにいろいろな活動をしています。

そのほかにも、多くの弁護士が、人権や正義をまもるために毎日活動しています。
いじめや差別を受けて苦しんでいる人、犯罪の被害にあった人、公営で家を建てた
人などを助けたり、みんなが安心して暮らせるよう、よりよい社会になるように国のル
ールである法律をより良くするための活動や研究も行っています。



とじる



弁護士になるにはどうすればいいの？

みなさん、弁護士がどういう仕事をしているか、わかりましたか？

「よくわかりましたー！」

弁護士って、トラブルにまぎこまれて困っている人を助ける正義の味方！

「私も、大きくなったら弁護士になってみたいな」

「どうすれば弁護士になれるんだろう？」

「むずかしい試験があるの？」

「たくさん勉強しなければいけないって聞いたけど〜」

それでは、弁護士にはどうしたらなれるのか、説明をしましょう。

司法試験に合格する必要があります。

弁護士は、社会の中のあらゆることやトラブルを公平に解決するための仕事をします。

何が原因でそのあらゆることが起きているのか、そこで社会のルール(法律)にしたがって、どうしたらそのあらゆることを公平に解決できるのかを考え、困っている人にアドバイスをします。

だから、社会のルール(法律)などについて、とてもわくわくしないといけません。

そこで、「司法試験」といって、たくさんの法律に関する詳しい知識やあらゆることを解決するにはどうしたらよいかを考える力をためるためのテストが行われています。

弁護士になるためには、まずこのテスト(司法試験)に合格しなければなりません。

司法試験は、弁護士以外にも同じく法律の専門家である裁判官や検察官になるためにも合格しなければならぬ試験なのです。

この司法試験は、だれでも受けることができます。大学を卒業してなくても、日本人でなくても。また、目や耳が不自由など、体に障害があっても受けられます。

司法修習生は、法律家のためです。

司法試験に合格すると、「司法研修所」という法律の専門家になるための学校に入ります。

そこで、1年6か月の間、実際に弁護士や裁判官、検察官 などのような仕事をしているかについての勉強をします。

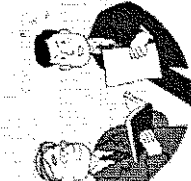
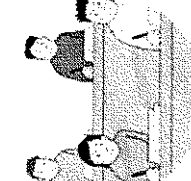
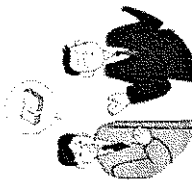
この学校を卒業してはじめて弁護士あるいは裁判官や検察官になることができます。

弁護士としてがんばっています。

「司法研修所」を卒業したあと、弁護士 となるためには、「日本弁護士連合会(日弁連)」に登録しなければなりません。

日弁連に登録してはじめて弁護士として活動できるのです。

現在、日本にはおよそ1万9000人の弁護士がいます。



そのうち、女性の弁護士は、およそ2000人と少ないのですが、それでも最近ふえてきました。

これからも女性の弁護士がもっともふえていくと思います。

これから弁護士になるための制度が変わります。

今、弁護士や裁判官など法律の専門家に対して、いろいろなことが求められるようになってきました。

そしていつでも、どこでも、だれでも気軽に弁護士に相談できるようにしてほしいという希望がたくさんあります。

裁判をもっと変えやすくしてほしいという声もたくさんあります。

そのためには、法律の専門家としていろいろな人からのリクエストに十分にこたえられるみんなから信頼される法律家をたくさんつくる必要があります。

そこで、「法科大学院」という法律家をめざす人のための学校を新しく全国各地につくっていくことになりました。これからは、法科大学院でしっかり法律の勉強をしてから「司法試験」を受けることになります。

この法科大学院は2004年に第1号ができて、その後少しずつ増えていきますので、これから弁護士になりたいと考えている人は、多くの人がこの法科大学院をめざすことになりました。新聞 やテレビで法科大学院のニュースが出たら気をつけて見てください。

みなさんもがんばってください。

弁護士になるためには、たくさん法律の勉強をして、むずかしい試験も受けなければいけません。小学生、中学生のみなさんにとってはまだまだ将来のことですね。

今は、学校で学ぶいろいろな科目をしっかり勉強して、たくさんの方々と元気に遊んでください。

弁護士をめざす人もめざさない人も、こまごま人のためにほたらきたい、社会の中で不正はゆるさないという正義の味方になろうという夢はずっともちつづけてください。

そしていろいろなことにすすんでチャレンジできる人間になってください。

がんばってください。



Copyright ©2007 Japan Federation of Bar Associations. All rights reserved.



「裁判」って何だろう

社会の中ではいろいろなルールがあります。

それらを公平に解決するためのルールである「法律」の役割については、もう勉強しましたよね。みんなが安全で、平和に暮らしていくには、社会のルールである「法律」を守ることが大切です。

でも、残念ながらどんな立派な法律があっても、それを守らない人がいますし、めんどくさいことも必ず起こってしまいます。

たとえば、学校でもめんどくさいことが起こってしまったり・・・？

お互いに話し合いだけでは解決できず、とっくみあいのけんかになってしまったり、争いがあります。でもこれでは、勝つのはいつもけんかの強い子で、けんかの弱い子はいくら正しいことを言っても、いつも負けてしまうことになってしまいます。それでは不公平ですよね。

社会でも同じです。どちらがけんかが強いかなどといった暴力で決着をつけるべきではありません。

どうしたらみんなが納得できるのでしょうか？

野球やサッカーなどのスポーツでは、審判が公平な立場からどちらが正しいか決めてくれます。審判の判断にしたがわない選手は「退場」しなければならなくなり、試合を続けることができなくなってしまいます。

スポーツには、「ルール」があって、「ルール」にしたがって公平に正しい判断をする人(審判)が必要です。

同じように、社会では、ルールである法律が決まっていますが、たくさんのお客が来たら、社会では、ルールである法律が決まっていますが、たくさんのお客が来たら、社会では、ルールである法律が決まっていますが、たくさんのお客が来たら、

そこで、法律の専門家が公平な立場から正しい判断を行う必要があります。これが「裁判」というしくみです。

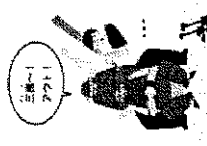
「裁判」ってなに。

みなさんは、テレビのニュースやドラマで「裁判」という言葉を耳にしたり、「裁判所」の風景を目にしたことがあると思います。

中央の一番高い所に黒い服を着て座っているのが、「裁判官」です。裁判官は法律の専門家として、いろいろな証言の中から本当のことは何かをきちんと考えて、どのような法律をあてはめればよいかを判断する役割の人です。

「裁判」では、この「裁判官」が争っている両方の人の言い分を十分に聞くことが大切です。そして、何でもめんどくさいことが起こったのか、どちらが正しいのか、本当のことは何なのかをしっかりと考え、そして、この事実に基づいたような法律をあてはめればよいかを考え「判決」という判断を言い渡すのです。

「法律」は、みんなが決められた社会のルールで、みんなが守らなければならないものです。「裁判」は、その法律にしたがって公平で正しい解決方法を究めるための大切なしくみなのです。

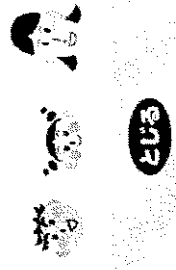


また、社会は時代とともに変化していきます。

そこである法律が社会の役に立っていないように感じるときは、その法律が正しいか正しくないかを「裁判」であらそうすることもできます。

「裁判」は、社会のめんどくさい問題を解決するための大切な役割を果たしているということが分かってもらえましたか。

裁判のなかで弁護士がどういった役割をするのかについては、「弁護士って何をする人？」のページを見てください。



Copyright ©2002 Japan Federation of Bar Associations, all rights reserved.

また、決めるのに参加したルールであれば、守ることもできるでしょう。

ルールは、そのルールが**なぜ必要なのか**、そのためにはどのようなルールが必要なのかを考えて、みんなが納得する方法で、納得できる内容のルールを決めていくことが大切だということはわかってもらえたでしょうか。



Copyright © 2007 Japan Federation of Bar Associations. All rights reserved.